

2025 → 2026

開館時間・休館日

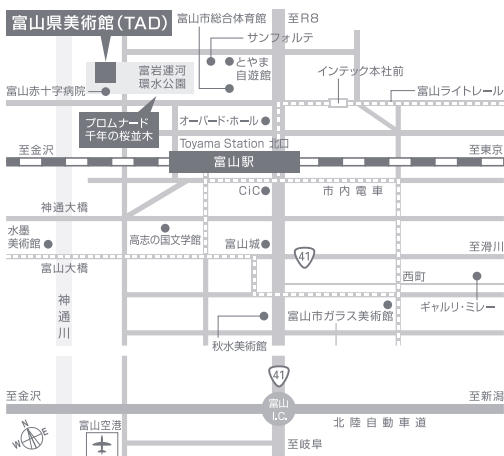
	利用時間	休館日	料金
美術館	9:30 - 18:00	・毎週水曜日 (祝日除く) ・祝日の翌日 ・年末年始	・コレクション展: 一般300円(240円) ※()内は20人以上の団体料金 ・企画展: 展覧会により異なります。 ・企画展観覧料でコレクション展も ご覧いただけます。
オノマトベの屋上	8:00 - 22:00	12月1日～3月15日	
駐車場	8:00 - 22:30		最初の1時間330円 以降30分毎に110円加算。 ※美術館利用の方、2時間無料 (事前精算機をご利用ください。)

※メンテナンスや展示替え作業等のため臨時休館する場合があります。
※季節やイベント等に応じて、臨時開館や延長開館する場合があります。

- ・次の方は、コレクション展・企画展ともに観覧無料
 - 1) 児童、生徒(小・中学生、高校生など)
 - 2) 学校教育、社会教育活動としての児童・生徒の引率者(観覧料免除申込書が必要です)
 - 3) 各種手帳をお持ちの障がい者の方の観覧
(付き添いは手帳をお持ちの方1人につき1名まで無料)
- ・大学生と70歳以上の方は、コレクション展が観覧無料
(大学生の対象は、大学、大学院、短期大学、高等専門学校(4年以上)、専修学校(専門課程)、
専修学校(一般課程の19歳以上)、通信制大学、放送大学です)
- ・詳しくは富山県美術館ホームページでご確認いただくか、美術館へお問い合わせください。
- ・ご来館の際は、当館ホームページの「入館時のお願い」をご確認ください。

アクセス

- 富山駅北口(あいの風とやま鉄道改札側)から
徒歩約15分 / タクシー約3分
バス: 1番のりばより乗車、「富山県美術館」下車すぐ
- 富山空港より……タクシー: 約20分(約9km)
- 北陸自動車道より……自動車: 約15分(富山I.C.から国道41号経由)



Toyama Prefectural Museum of Art & Design

富山県美術館(TAD)
展覧会スケジュール
2025.4 - 2026.3

富山県美術館(TAD)

TAD: Toyama Prefectural Museum of Art and Design
※ Toyama Art Design の略文字をとり、TAD と略称しています。

〒930-0806 富山県富山市木場町3-20(富岩運河環水公園内)
TEL: 076-431-2711 FAX: 076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>

スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
展示室 1	第Ⅳ期 -4/22	コレクション展Ⅰ期 4/24 - 7/21			コレクション展Ⅱ期 7/24 - 10/21			コレクション展Ⅲ期 10/23 - 1/12			コレクション展Ⅳ期 1/15 -	
展示室 2	没後20年 東野芳明と戦後美術	石岡瑛子ーデザイン			国立美術館 コレクション・プラス 7/17-10/28			「デザイナーの冒険」 DESIGN with FOCUS			ハッチボッチ 藤枝リュウジの世界	
展示室 3	-4/6	宮城県美術館 コレクション 絵本の ひみつ展 7/12 - 8/24			ポップ・アート 時代を変えた 4人 9/6 - 10/26			11/8 - 1/25			2/7-4/中旬	
展示室 4	4/19 - 6/29	7/12 - 8/24			9/6 - 10/26			11/8 - 1/25			2/7-4/中旬	
展示室 5	第Ⅳ期 -4/15	デザイン・コレクション展Ⅰ期 4/17 - 7/21			デザイン・コレクション展Ⅱ期 7/24 - 10/14			デザイン・コレクション展Ⅲ期 10/16 - 1/12			デザイン・コレクション展Ⅳ期 1/15 -	
展示室 6	第Ⅳ期 -4/15	瀧口修造コレクションⅠ期 4/17 - 7/21			瀧口修造コレクションⅡ期 7/24 - 10/14			瀧口修造コレクションⅢ期 10/16 - 1/12			瀧口修造 コレクションⅣ期 1/15 -	
	第Ⅳ期 -4/15	シモン・ゴールドベルク& 山根美代子 コレクションⅠ期 4/17 - 7/21			シモン・ゴールドベルク&山根美代子 コレクションⅡ期 7/24 - 10/14			シモン・ゴールドベルク & 山根美代子 コレクションⅢ期 10/16 - 1/12			シモン・ゴールドベルク & 山根美代子 コレクションⅣ期 1/15 -	
	企画展	コレクション展										

※記載内容は都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

まるごとTADこども美術館

コレクション展

2階 展示室1 コレクション

約3か月に1度の展示替えて、自慢のコレクションを多彩に展示。常に新鮮な出会いが楽しめます。

国立美術館 コレクション・プラス

2025年度は、7/17～10/28の間、展示室2まで拡張し、国立国際美術館より、バーネット・ニューマン、サイ・トゥオンブリー、パブロ・ピカソの名品を借用、展示します。

特別協力：国立国際美術館、国立アトリサーチセンター

3階 展示室5

デザイン・コレクション

ポスターと椅子を中心としたデザイン・コレクション。国内外のすぐれたポスターとともに、デザイン史に残る名作椅子が並びます。ポスター・コレクションの画像は、大型ディスプレイでも自由に楽しめます。

3階 展示室6

瀧口修造コレクション

シモン・ゴールドベルク&山根美代子コレクション

富山県出身の美術評論家・瀧口修造の部屋では、ミロやデュシャンなど親交を結んだ作家たちから贈られた作品などが並びます。また、富山を愛し晩年を過ごした天才ヴァイオリニスト、シモン・ゴールドベルクが生前に集めた20世紀の優品を展示します。



パブロ・ピカソ《討かけ椅子の女》1923年
©2025-Succession Pablo Picasso-BCF(JAPAN)



ジャクソン・ポロック《無題》1946年



《書斎の瀧口修造夫妻》1975年 撮影：大辻清司



倉俣史朗《引出しの家具》1967年
撮影：柳原良平 ©Kuramata Design Office

※記載内容は都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

石岡瑛子 | デザイン

2025年4月19日(土) - 6月29日(日)

一般：¥1,500(¥1,300)
大学生：¥1,000(¥800)
一般前売り：¥1,300
※()内は20名以上の団体料金

広告、舞台、映画など、表現のジャンルを超えて世界的に活躍したデザイナー石岡瑛子(1938-2012)。1961年資生堂に就職、デザイナーとしてのキャリアをスタートさせた石岡は、前田美波里を起用したポスターで意志と自信に満ちた新しい女性像を提示、世間に衝撃を与えました。70年に独立、池袋PARCOを立ち上げて間もない企業バルコとともに、次々と革新的な広告キャンペーンを打ち出します。80年代以降はニューヨークに拠点を移し、名だたる映画監督や音楽家たちと競演、そのデザインは国際的にも高く評価されました。

本展では、石岡の原点ともいえる初期の東京時代の仕事を中心に、約500点を一挙公開、彼女の言葉とともに紹介します。一世を風靡したポスターやCMだけでなく、雑誌や教科書からレコードジャケットのデザインに至るまで、石岡瑛子の世界をご堪能いただけます。

デジタル化とともに急速に変わりゆく現代にあって、常にトップを走り続け、「I(私)」をつらぬいた石岡。その声と体温を感じてください。



[左]「太陽に愛されよう 資生堂ビューティケイク」資生堂ポスター(1966)
[右]「西洋は東洋を着こなせるか」PARCOポスター(1979)

宮城県美術館コレクション

絵本のひみつ展

2025年7月12日(土) - 8月24日(日)

一般：¥1,100(¥850)
大学生：¥550(¥420)
一般前売り：¥850
※()内は20名以上の団体料金

宮城県美術館所蔵作品より、月刊絵本「こどものとも」の絵本原画をご紹介します。同館の絵本原画コレクションは、「こどものとも」の初期作品と、そこから絵本出版界に羽ばたいていった作家たちの手による原画を核に形成されています。子どもたちに上質な絵本をとの思いから1956年に創刊された「こどものとも」は、洋画、日本画、漫画、商業デザインなどあらゆる分野に携わる美術家たちが絵を寄せたことで知られ、美術家たちはその新規の舞台で、思い思いの発想で絵を描きました。描き手たちの絵が物語世界を魅力的に膨らませたことはもちろん、表現を支える材料・技法の選択や画面構成といった造形上でも、彼らはまた清新な感覚を発揮しています。

本展では、原画の前に立って直に向き合うからこそ見て取れる、手の痕跡や、画材・質感に注目します。絵本に親しんできた方だけでなく、これから絵本の世界にふれるみなさんにとっても、原画に接近して見る体験を通じて、絵に込められた描き手の思考や愛情にふれていただける機会となることでしょう。



林明子《ひよこさん》5-6頁原画 2013年 宮城県美術館蔵

ポップ・アート

時代を変えた4人

2025年9月6日(土) - 10月26日(日)

一般：¥1,500(¥1,300)
大学生：¥1,000(¥800)
一般前売り：¥1,300
※()内は20名以上の団体料金

ポップ・アートは、報道写真、商業広告、量販品のパッケージ、著名人のポートレートなど、日常生活にありふれたモチーフやイメージを美術の中に取り入れ、1960年代のアメリカのアートシーンを席巻しました。ロイ・リキテンスタイン(1923-1997)、アンディ・ウォーホル(1928-1987)、ロバート・ラウシェンバーグ(1925-2008)、ジャスパー・ジョーンズ(1930-)はポップ・アートを牽引した作家たちです。彼らは戦争や社会問題が巻き起こっていた激動の時代において、ポピュラー・カルチャーやロック音楽との関わりを通じて、アートと社会の姿を変えていきました。

本展はスペイン出身のコレクター、ホセリス・ルベレス氏のコレクションから約120点の版画、ポスター、服飾を展示します。

ルベレス氏のコレクションを通して、本展では同じ1960年代に脚光を浴びたザ・ビートルズになぞらえ、リキテンスタイン、ウォーホル、ラウシェンバーグ、ジョーンズの4名を「ザ・ファビュラス・フォー(素晴らしき4人)」と呼び、彼らの作品を中心に、時代を変えたポップ・アートの軌跡をご覧ください。



[左]アンディ・ウォーホル《マリリン》1970年 Joseluis Rupérez Collection
[右]ロイ・リキテンスタイン《スウィートドリームス・ベイビー》1966年 Joseluis Rupérez Collection
© 2025 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Licensed by ARS, New York & JASPAR, Tokyo G3766
© Estate of Roy Lichtenstein, New York & JASPAR, Tokyo, 2025 G3766

DESIGN with FOCUS

デザイナーの冒険展

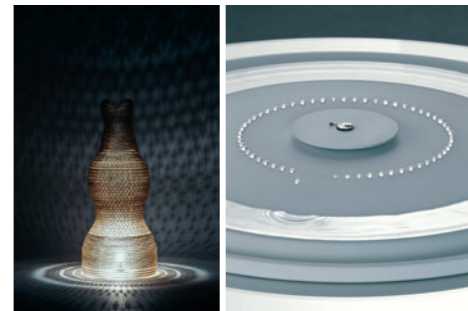
2025年11月8日(土) - 2026年1月25日(日)

一般：¥1,300(1,000)
大学生：¥650(500)
一般前売り：¥1,000
※()内は20名以上の団体料金

本展はこれからの時代を担うデザイナーやエンジニアの思考(着眼、仮説、実験、デザイン)のプロセスにフォーカスした展覧会です。現代はさまざまな要因が絡み合い複合化しています。その為、これまでのように一人のデザイナーがすべてを担うのが困難な時代になりました。また、AI、プログラミング、化学、エンジニアリングなどの専門家とデザイナーが、コラボレーションを行うリサーチプロジェクトに注目が集まっています。併せて、SDGs、サーキュラーエコノミーといった全人類が取り組まなくてはならない課題にも直面しています。

毎年4月に開催される「ミラノデザインウィーク」等で、その動向を知ることが出来ます。こうした最前線の動きを気鋭のクリエイター10組11人の作品をご紹介します。デザイナーの思考の冒険をお楽しみください。

参加デザイナーは、後藤映則、進藤 篤、鈴木 舞、高野洋平+森田祥子、氷室友里、本多冴映、松山真也、光井 花、三好賢聖、山本大介



鈴木舞

松山真也

ハッチポッチ 藤枝リュウジの世界

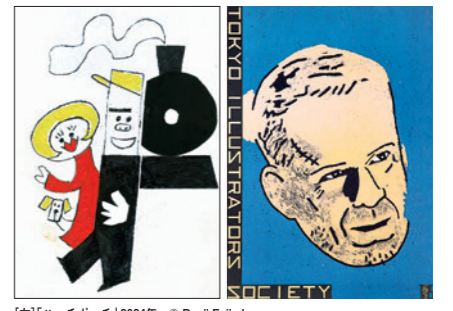
2026年2月7日(土) - 4月上旬

一般：¥1,100(850)
大学生：¥550(420)
一般前売り：¥850
※()内は20名以上の団体料金

イラストレーター・アートディレクターとして活躍する藤枝リュウジ(1943-)。1968年、東京藝術大学工芸科を卒業後、サン・アドに入社し、デザイナーとしてのキャリアをスタートします。72年に独立、広告などのアートディレクションを手がける傍ら、イラストレーターとしても活躍。87年、東京「HB Gallery」にて個展を開催、以降継続して新作を発表し好評を得ています。94年、世界ポスタートリエンナーレトヤマ銅賞。96年、アートディレクションを手がけたバベット番組「ハッチポッチステーション」がNHK教育テレビ(現・Eテレ)で放送開始。藤枝のポップなデザインは幅広い年代に親しまれ、その後「クインテット」「フックブックロー」「コレナンデ商会」と四半世紀にわたって続く人気シリーズとなりました。

本展は、バベット番組をはじめとしたテレビ・広告などのアートディレクション作品と、個展作品を中心とした絵本・装幀などのイラストレーション作品から、500点以上を紹介する、はじめての大規模展覧会です。藤枝リュウジの「ハッチポッチ」な世界を、ぜひお楽しみください。

*ハッチポッチ=hatch potch=ごった煮



[左]「ハッチポッチ」2024年 © Ryuji Fujieda
[右]東京イラストレーターズ・ソサエティポスター 1992年
(世界ポスタートリエンナーレトヤマ 1994年 銅賞)